

令和4年度分 セルフモニタリング報告書

令和5年 5月26日

施設名: 追分児童館  
 指定管理者名: 社会福祉法人追分福祉会

モニタリング項目	指標	指定管理者コメント	自己評価
<b>1 事業計画の達成度</b>			
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理が行われたか。	利用者数	新型コロナウイルスの影響もあったが概ね計画通りに実施した。	Ⓐ・B・C・D
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	施設稼働率 (参考)利用料金収入の状況	自立支援や放課後の過ごし方の選択肢も増えたこともあり、利用者の数は減少傾向にあり、低年齢化が進んでいる。高学年を対象としたイベントも企画している。	A Ⓑ・C・D
自主事業は計画どおりに行われたか。	委託事業・自主事業の実施状況及び事業参加者数	行事等の変更もあったが概ね計画通り実施した。	Ⓐ・B・C・D
利用者拡大・事業実施等の情報発信が行われたか	情報発信・事業PR回数	メール連絡、掲示などで行事の周知をしている。	Ⓐ・B・C・D
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか	地域・関係団体等との連携	新型コロナウイルスの影響もあり、実施していない。	A Ⓑ・C・D
<b>2 利用者の満足度</b>			
利用者の満足が得られているか。	利用者満足度	アンケート調査でも高評価を頂いている。	Ⓐ・B・C・D
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	苦情・要望の状況 (利用者アンケート調査結果)	ネットフォーム化を予定していたが、紙面で実施した。	A Ⓑ・C・D
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分に行われたか。	窓口体制の状況	適切に対応を行っている。	Ⓐ・B・C・D
<b>3 管理運営の効率性</b>			
経費の低減は図られているか。またその取組は十分か。	効果的な管理運営取組状況	節電、節約を心がけて行っている。	Ⓐ・B・C・D
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	効果的な管理運営取組状況	節約、節電を行い経費を最小に抑えている。	Ⓐ・B・C・D
<b>4 適正な管理運営</b>			
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	職員の配置状況	地域の人材を雇用している。	Ⓐ・B・C・D
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	職員研修の実施状況 マニュアル等の作成	児童館での視察、子ども園と合同の職場内研修など実施している。	Ⓐ・B・C・D
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか(使用料の減免、還付含む)	利用拒否の状況、平等利用の取組状況	利用の拒否は無し。適切に行っている。	Ⓐ・B・C・D
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか	個人情報保護の取り組み(対策)	適切に取り組みを行っている。	Ⓐ・B・C・D
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	収支決算の適正な管理	適切に処理している。	Ⓐ・B・C・D
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	施設修繕等の状況	電気設備、消防設備の点検など適切に行っている。	Ⓐ・B・C・D
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	備品購入廃棄の状況	日常の記録など適切に行っている。	A Ⓑ・C・D
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	事故等の発生状況 マニュアル等作成状況	遊具の点検など、事故防止に努めている。	A Ⓑ・C・D
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	基本協定書及び年度協定書の等遵守	法令等を遵守している。	Ⓐ・B・C・D
<b>5 地域貢献</b>			

雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元発注状況	備品の購入、工事の発注など地元の業者に依頼している。	A ● B ● C ● D
---------------------------	--------	----------------------------	---------------

- A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B: 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C: 概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。

**自己評価**      ★   ★   ★   ★   ☆

---

(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

**指定管理者の自己評価(全体を通して)**

子ども達が一人で自宅に帰宅できたり、一人で留守番できたりするように家庭への自立支援を行っていることや、あびらぼ・ぷれいば・習い事・少年団活動など放課後の過ごし方の選択肢の増加、新型コロナウイルスの影響もあり、年々利用者数は減少傾向にあり、利用者層も低学年化が進んでいます。児童館としては、消毒・換気など新型コロナウイルス対策を行いながら、利用する児童が安全に過ごせる環境、保護者が安心して預けられる環境を作ってきました。利用者数の減少も子ども達が友達同士で遊んだり、自宅で過ごすことも大切だと考えており、必ず児童館を利用しなければならないと考えている保護者が多くいましたが、最近では減ってきたように感じています。

新型コロナウイルスの状況も落ち着いてきているため、令和5年度からは自粛してきた活動も元に戻し、子ども達がより楽しく児童館を利用できるように、取り組んでいきます。